

教育委員会会議録要旨（令和5年第13回）

定例会	日 時	令和5年7月11日（火） 午後1時30分
	場 所	明石市役所分庁舎 4階教育委員会室
出席者	委 員	北 條 英 幸 教 育 長 橋 幸 男 委 員 柏 木 輝 恵 委 員 川 本 まり子 委 員 橋 本 彰 則 委 員
	事 務 局	長田局長 田辺室長 北迫次長（指導担当） 新田次長（給食担当） 西山総務担当課長 小島学校教育課長 長尾児童生徒支援課長 福田明石養護学校長 三ノ浦総務担当企画総務担当係長

次 第

○報告事項

議案第 22 号 令和 6 年度使用 明石市立明石養護学校高等部の教科用図書採択申請について

○報告事項

1. 「明石こどもサミット 2023」の開催について

開催

(北條教育長)

それでは、ただいまから、令和 5 年第 13 回定例会を開会します。

本日の署名委員は、川本委員をお願いします。

それでは、本日の審議を始めます。

まず、議案第 22 号「令和 6 年度使用 明石市立明石養護学校高等部の教科用図書採択申請について」、説明をお願いします。

(小島課長)

内容といたしましては、議案第 22 号「令和 6 年度使用 明石市立明石養護学校高等部の教科用図書採択申請について」、説明いたします。

令和 6 年度使用の明石市立明石養護学校高等部の教科用図書につきましては、教科用図書選定に関する報告書にあげる図書を選択するというものでございます。

提案理由といたしましては、本案は、明石市立明石養護学校長から申請のあった令和 6 年度使用の明石市立明石養護学校高等部教科用図書選定につき、申請の通り採択しようとするものでございます。

本日は、明石養護学校高等部教科用図書選定委員会代表の福田校長が出席しておりますので、教科書選定に関する補足説明は福田校長から行います。

(福田校長)

それでは、補足説明をさせていただきます。

明石養護学校は肢体不自由の種別の特別支援学校であります。多くの児童生徒が肢体不自由と知的障害の重複障害の児童生徒です。ち

なみに、知的な遅れがなく、当該学年の学習を履修する教育課程を本校ではⅠ類型の教育課程と呼んでおりますが、今まで高等部にⅠ類型の生徒が在籍することはありませんでした。そのため、教科書についても高等学校の検定教科書を選定し、採択していただくということもございませんでした。また、現時点において、来年度に通常の高等学校の教育課程を履修する生徒が在籍する予定はございません。しかしながら、今後、Ⅰ類型の生徒が入学・転学してくることを想定し、令和2年度より、市教委とも相談し、教科書の選定を行っております。

具体的な説明の前に、高等学校における新学習指導要領の実施についてふれさせていただきます。周知のとおり、高等学校におきましては、昨年度より、順次学年進行で新学習指導要領が実施されていくこととなっております。来年度より全学年において、新学習指導要領による教育課程が実施されることとなります。一昨年度には主に高等部1年生が使用する新学習指導要領による教科書を選定、昨年度は高等部2年生が使用するものを選定というように選定作業を行ってまいりました。よって、今年度は高等部3年生が使用する新学習指導要領による教科書の選定作業を行いました。尚、高等学校においては選択科目が多いため、選択のモデルケースを設定して科目を選んでいます。

すべての科目について取り上げますと長くなりますので、いくつか選んで説明させていただきます。

まず、国語ですが、今年度は選択科目の「文学国語」と「国語表現」を選定しました。まず「文学国語」については大修館書店の「新編文学国語」を選定いたしました。現代小説、古典作品、近代作品がバランスよく掲載されており、難解な文章の横には色を変えて説明文が記

載されています。A5 版の手に取りやすいサイズで、見やすい書体、鮮明な印刷で読みやすいものとなっています。

「国語表現」については東京書籍の「国語表現」を選定いたしました。文章を書くという表現だけではなく、身体表現、他人を演じるといった様々な表現方法を扱っています。また、表現するための技能がわかりやすくまとめられています。字体、色使い、レイアウトが工夫され見やすい書面となっています。

公民科の必修科目である「公共」については第一学習社の「高等学校新公共」を選定いたしました。見開き完結型の構成でテーマに対する問いを設定して学習を進め、最後に自分でまとめることで主体的な学びが行えるようになっています。読みやすい字体で、重要な語句はゴシック体が使用されています。また、ページの縁取りの色がテーマごとに変えられていて、内容のまとまりがわかりやすくなっています。

次に数学ですが、選択科目の「数学Ⅲ」に実教出版の「高校数学Ⅲ」を選定いたしました。単元の導入場面に学習する内容と関連のある事象等を紹介しており、数学と生活とのつながりを実感できるように工夫されています。サイズが B5 版で A5 版に比べ大きいため、字体や図、表も大きく掲載され見やすいものになっています。数学Ⅰ、Ⅱも実教出版のものを採択しており、同じ構成の教科書を使用することで学習に取り組みやすい面もあると考えました。

次に「外国語」ですが、選択科目である「英語コミュニケーションⅢ」に東京書籍の「All Aboard! English CommunicationⅢ」を、同じく選択科目の「論理表現Ⅲ」には三省堂の「My Way Logic and ExpressionⅢ」を選定いたしました。「All Aboard! English

CommunicationⅢ」は自然、文化、芸術など、多様性や異文化への理解を深められる題材や SDGs に関する題材が多く掲載されています。

ページ左下の QR コードを読み取ると新出語句や本文が音声で視聴できます。行間が広めで読みやすく、色鮮やかな写真が多用されている等、視覚面でも優れていると判断しました。

「My Way Logic and Expression Ⅲ」については、「発表」「書く」「説明」といった活動と品詞とを組み合わせる構成になっています。全 10 回の「Grammar for Speaking and Writing」で高校生として必要な文法事項を身につけられるようになっています。行間が広く、字体も大きめで、圧迫感のないすっきりしたレイアウトになっています。

最後に数学と理科にわたる探究的科目として新設された「理数探究基礎」について、啓林館の「理数探究基礎」を選定いたしました。探究の進め方が事例とともに、わかりやすく構成されています。随所に生徒が興味を持つようなコラムが掲載されており、中には同世代の高校生の活躍を紹介したものも含まれています。探究ワークシートや QR コードも学習活動を進める上での手助けになると思われます。A4 判で余白が多めで圧迫感のないレイアウトで、写真や絵が多用され、親しみやすい紙面となっています。

いずれの教科書におきましても、基本的に、生徒が興味をもちやすく、内容が理解しやすいといったことに加え、視覚的に見やすい活字、行間、色彩か、ページを探しやすいか、といったことを主な選定のポイントとしております。

(北條教育長)

何かご意見やご質問などはありますか。

(川本委員)

この選定に関しては、どのような組織で行われているのでしょうか。

か。

(福田校長)

本校の教員を主に、市教委からも指導主事の先生方に加わっていただきまして、各教科の担当を決め調査活動を行った後、保護者代表の方にも加わっていただきまして、選定に係る会議をもつという経緯で行っています。

(柏木委員)

現在は使用されている生徒の方はいらっしゃらないということでしたが、選定にあたってはどういったニーズのある生徒の方を想定して選んでらっしゃるのかということと、細かく選定理由は教えていただいたのですが、全体としてどういった視点、観点で選定するということが方針とされていたのか教えていただけたらと思います。

(福田校長)

実は、現在小学校4年生に、知的な遅れがなく、通常の教育課程を履修している生徒が在籍しております。このような選定活動を行うということにおいては、実際そのような状況にあるということで、早め早めに子どももそういった選定作業に慣れて、いざその子が高等部に入ったというようなことを想定し、これまでやってきております。

例えば、パソコンを足で操作をすとか、パワーポイントでプレゼンテーションをすとか、それから全教科のテストを行う等、通常の教育課程と言っても過言のない形で勉学しておりますので、今のところ、その児童を想定しております。

また、本校は肢体不自由の特別支援学校でございますので、基本的に肢体不自由の視点として、まずは取り扱いやすい教科書であるか、紙質が堅牢なものであるか、そして先ほどから「見やすい」という言葉を何度か使わせていただいたかと思うのですが、生徒の中には眼振盪や視野狭窄の子どももおりますので、見やすい、扱いやすいというところを重要なポイントとして選定しております。

(橘委員)

実際にこれを使う生徒は今のところいないということでしたが、参考までに伺いたいのですけれども、例えば国語なら、この教科書を使わないで、どういう教材を使って実際に授業を進めておられるのか、そして、その使われている教材に、学習指導要領との関係みたいなものは反映しているのかどうか、その辺りをお伺いしたいと思います。

(福田校長)

現在の高等部ということによろしいですね。

まず、下学年本ということで、高等部の教科書ではなく、例えば中学校であるとか、小学校であるとか、そういった下学年の教材、教科書も含めて使用し、学習している高等部の生徒もおります。また、本校の場合、自立活動といたしまして、訓練中心の教育課程を採択しているという生徒もおります。その場合は、紙媒体のものというよりは、実際に教員が何か物を使って、国語的な学習を行っております。いわゆる本というふうな媒体を使うという形の学習をしている生徒ばかりではなく、物を介して学習をしている生徒も在籍しているということです。

(北條教育長)

福田校長先生、ご説明ならびにご答弁いただき、ありがとうございます。これより採択となりますので、福田校長先生にはご退室いただきます。

それでは採択について諮らせていただきます。

議案第 22 号を承認としてよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(北條教育長)

議案第 22 号を承認といたします。

次に、報告事項 1「明石こどもサミット 2023」の開催について、説明をお願いします。

(長尾課長)

報告事項 1「明石こどもサミット 2023」の開催について、報告させていただきます。

まず、本市としましては、いじめ防止および児童生徒の自治活動の推進に係る取組みの一環としまして、いじめやネットトラブル等について、子どもたち自身が自主的に考える子ども会議やこどもサミットを開催してまいりました。令和元年の「いじめストップ明石こども会議」から、今年度に至るわけですけれども、コロナのため、令和2年度、3年度、4年度は、規模を縮小した形での参加にさせていただきましたが、今年度につきましては、コロナ禍前と同様、原則市内全ての小・中学校の代表が集まった形でいじめについて考える、「明石こどもサミット2023」を開催したいと思っております。

内容といたしましては、いじめ（インターネットなどによるいじめを含む）について、その防止策や対応策などについて、子どもたちが自ら考えるとともに、各学校の方に持ち帰っていただきまして、児童会、生徒会活動において、当日の議論を生かした取組みを進めていってもらいたいと思っております。

開催時期については8月4日の金曜日、13時から16時を予定しております。

開催場所については、これまでにはなかった大きな会場、市民会館の中ホールを使わせていただきたいと思っております。

そのときのコーディネーターとしまして、兵庫県立大学の竹内教授、ゼミ生、並びにソーシャルメディア研究会の大学生たちにお手伝いとして来ていただき、当日取り組んでいただくような形でお願いしております。

参加者につきましては、市内の小学校・中学校の児童会、生徒会から各2名ずつ参加していただきたいと思っており、最大82名ということで予定しております。並びに、担当の教職員の先生、広くスパー

スがございますので、保護者の方にも参加していただけたらというように案内をしております。

当日につきましては、6～7人のグループを12グループつくり、テーマに沿ってお互い意見を出し合う参加型のワークショップ形式で行う予定にしております。

最後に、参考資料としまして添付させていただいております事前アンケートをとらせていただきました。小学校1年生から6年生並びに中学校1年生から3年生までの全児童、生徒に対する生活アンケートということで、2枚に渡って45項目あります。大学で竹内教授、研究会の学生等でアンケート結果の分析等を行っていただき、それを当日に活かしていただくという形にしております。

最後に付けております資料ですが、これは昨年度、勤労福祉会館で行った子どもたちの様子を載せています。今年度も実りのある会議にしていきたいと思っております。お時間等ございましたら、ぜひとも子どもたちの様子を見ていただければありがたいと思っております。よろしく願いいたします。

(北條教育長)

何かご意見やご質問などはありますでしょうか。

(柏木委員)

最大82名の方が来られるということでしたが、案内の方法としては、必ず全校の生徒会が出席するという形なのか、任意で参加したい学校が出席するという形なのかというところを教えてください。

(長尾課長)

参加につきましては、児童会、生徒会のメンバーに限るということで案内を出させていただいております。

また、学校によっては、それ以外の生徒も参加できないかというようなお願いもありましたので、検討した上で、学校と協議し、参加について考えさせていただいております。

(柏木委員) 必ず各校出席するよという言い方で案内されているのか、各学校の生徒会の皆さんが、出席したければ出席してもいいというご案内なのかどちらでしょうか。

(長尾課長) コロナ禍の場合は手挙げ方式でしたが、今年度は、学校の方に必ず参加していただくような形でお願いしております。

(川本委員) 今年度から会場が中ホールになるというお話しでしたけれども、中ホールとなると、壇上と下という感じになってしまい、全員が壇上に乗ることもできず、会場も暗いように感じます。平場の方が、話しがしやすかったのではないかと思うのですがどうでしょう。

(長尾課長) 会場につきましては、中ホールということで定員が 490 名入るスペースになっております。構造上、舞台ステージがありまして、その前に可動式の席が 250 席、その後ろに固定席が 200 席というような形になっております。まずは、可動式のイスがない状態でオープンスペースにし、そちらに長机を用意し 12 グループで協議してもらう予定です。

発表時に関しましては、せっかく舞台がありますので、子どもたちに上がってもらい、舞台から発表という流れで考えております。

なお、固定席につきましては、200 席ございますので、たくさんの先生方や保護者の方にも見ていただけるような形になっております。

(川本委員) 「こどもサミット」ということで、サミットといえば政治のイメージがあると思うのですが、たまたまですが、前のアクションプランのときも申し上げましたが、主権者教育としても良い活動だと思います。できましたら是非、職員の方たちも来られているとは思いますが、出来るだけ干渉のない形で、子ども同士でいじめの防止策、対応策について対症療法的なことではなく、子どもの人権や、生活の中

で不思議に感じることも、そういった話し合いが出来たらいいなと思います。参加されている方は、生徒会の児童・生徒ということで、いじめをなくしていく立場で、いじめの当事者でない可能性が高いと思いますが、いじめを受けている子の気持ちといったようなことを深く考えるなど、難しいかもしれませんが、人権から取り組むぐらいの話し合いができれば良いと思いました。その中で、コーディネーターがソーシャルメディア研究会ということですが、専門として、データを分析するという意味でそのような先生を選ばれたということなのではないでしょうか。

(長尾課長)

人権的な観点からも、今後またそういったテーマに沿ってやっていけるように検討してまいりたいと思っております。

今回、大学の竹内教授に相談をさせていただき、ネットトラブルによるいじめということで、少し焦点を絞っております。ゼミの生徒もおりますが、研究生ということで、いろんな大学から呼び集めて、チームを組まれ、参加、サポートしていただくような形です。

普段から、そういったいじめに関する問題や、ネットトラブルへの対応のというようなことを研究されていると聞いております。

そういったいろんな観点を持ってやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(川本委員)

わかりました。そういった客観的な分析というものは非常に大切だと思います。何かを決めたり、宣言等があると思っておりますので、自分たちが話し合っただけの決めたことを実現できるように行動するということは、やはり主権者教育になると思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(長尾課長)

ありがとうございます。これをやりきただけで終わるのではなく、必ず学校の方に持ち帰って広めていける、周知できるような形を

とっていただくようお願いをして参りますので、ご理解のほどよろしく
お願いします。

(橋本委員)

非常に興味深いと思って聞いておりました。

一つの目的は、それぞれみんながいろんな意見を出し合うことによ
って、子どもたち自身が、そういう考え方があるんだなっていうこと
に気づいていくという、そこは非常に大きな目的だと思うし、コーデ
ィネーターや関連する人たちっていうのは、そういうところがあって
ということだと思うので、その部分っていうのは、いわゆるサミッ
トで結論を出しましたというのではなく、議論するというそのこと自
体が、それぞれの子どもたちの心の育成になっていくかなというふう
に思いますので、非常にいい機会だと思います。

その一方で、それは子どもたち自身の問題ですから、子どもたちが
どう変わったのかということの評価するというのは、外の間人が評価
するというのは難しいとは思いますが、全体の話の中であつた
ように、こういうことをやりましたということで終わってしまうの
は勿体ない、例えば終わった後にアンケートを取って、出席者に何か
気づきがあったかどうかなどをヒアリングしてみる、それに改めてコ
ーディネーターの先生の講評を付けてまとめるなど、何らかの有意義
な全体の総括ですね、そこをしっかりとっていただきたいと思います。

(長尾課長)

ぜひとも、子どもたちがこういった会議に参加し、自主的に議論を
深めたというようなことが、結果として残るような形で学校に返し、
また今後とも継続されていけるように、まとめていきたいと思ってお
ります。

(柏木委員)

できるだけ来てくださいという形で案内されるというところでは
したが、夏休みのお忙しい中、先生方、生徒の皆さまに集まっていた

くというところだと思いますので、是非、何かしら参加した生徒の方々にも気づきや学びがある機会にさせていただけたらと思っています。

少し細かいところですが、6～7名で12グループのワークショップというところは、どのような組み合わせでグループ設計されるイメージでしょうか。

(長尾課長)

12グループの分け方ですが、基本的には、小学校、中学校混ぜ合わせた形で、男女の割合を考慮するというように考えております。事前に竹内教授にメンバー表を渡し、大学院生、ゼミ生と協議した上でグループ分けを行うということで進めております。

(柏木委員)

普段出会えないような学校や、年齢の方と交流できる機会も生徒の皆さまにとっては学びになると思いますので、大学生、大学院生の方にそれぞれのグループに入ってくださいなど、中学生の方にとっても刺激になるような機会にさせていただくといいのではないかなと思いました。

(北條教育長)

以上で本日の議事は全て終了いたしました。

以上をもちまして、第13回定例会を終了いたします。

(14:00 閉会)